

**令和5年度
事務事業点検評価結果報告書
令和4年度実施事業**

蕨市教育委員会

目 次

I はじめに

II 事務事業点検評価の基本方針

- 1 目的
- 2 事務事業点検評価の対象及び方法
- 3 事務事業点検評価対象事業一覧

III 事務事業点検評価の結果

IV 今後の取り組みについて

令和5年度 事務事業点検評価シート

基本目標1 学びあい高めあう学校教育の充実

○教育内容の充実

事業番号1	学校図書館教育支援員事業	_____	4
事業番号2	少人数学級推進事業	_____	5
事業番号3	食育の推進事業	_____	6
事業番号4	特別支援員配置事業	_____	7
事業番号5	教育センター教職員研修事業	_____	8
事業番号6	外国語教育等推進事業	_____	9

○地域に根ざした教育の展開

事業番号7	学校応援団事業	_____	10
事業番号8	健やかメディア推進事業	_____	11

基本目標2 生涯学習を支える社会教育の充実

○学習環境と学習機会の充実

事業番号9	地区生涯学習フェスティバル事業	_____	12
事業番号10	図書資料の貸出(予約)事業	_____	13
事業番号11	家庭教育学級事業(子育て広場、子育て学級)	_____	14

○青少年の活動機会などの充実

事業番号12	わらび学校土曜塾推進事業	_____	15
事業番号13	信濃わらび山荘管理運営事業	_____	16

○芸術・文化活動の振興

事業番号14	蕨市公募美術展覧会事業	_____	17
事業番号15	音楽によるまちづくり事業(蕨市民音楽祭)	_____	18

○歴史・文化の保存と活用

事業番号16	特別展等開催事業	_____	19
--------	----------	-------	----

○人権・平和意識の高揚

事業番号17	特別展等開催事業	_____	20
--------	----------	-------	----

基本目標3 どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実

○スポーツ・レクリエーション活動の推進

事業番号18	スポーツ・レクリエーション推進事業	_____	21
--------	-------------------	-------	----

○スポーツ・レクリエーション推進体制の充実

事業番号19	スポーツ・レクリエーション団体支援事業	_____	22
--------	---------------------	-------	----

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

この報告書は、同法の規定に基づき、蕨市教育委員会が行った事務事業点検評価の結果をまとめたものです。

II 事務事業点検評価の基本方針

1 目的

蕨市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、効果的な教育行政の推進と教育目標の達成に資するとともに、その結果に関する報告書を議会へ報告し公表することで、市民への説明責任を果たし、より効率的で市民に信頼される公正で開かれた教育行政を推進することを目的としています。

2 事務事業点検評価の対象及び方法

蕨市教育行政の点検評価では、令和2年度からの5年間を計画期間とする第2次蕨市教育振興基本計画の「施策の展開・主な取り組み」の中から19の事業を選定し、令和4年度に実施した事業の取り組み状況及び成果、課題、今後の取り組みを踏まえ、実施しました。

なお、この事務事業点検評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する方など、外部の方々に、施策についての評価をいただくとともに、さまざまなご意見、ご助言をいただきました。

ご意見、ご助言をいただいた方々は、次のとおりです。

(敬称略)

氏 名	所 属 等 (現 職 等)
佐藤 一子	東京大学名誉教授
河又 裕介	蕨市PTA連合会会長

3 事務事業点検評価対象事業一覧

基本目標	施策	施策の展開・主な取り組み	事業番号	事業名
1 学びあい高めあう 学校教育の充実	1 教育内容の充実	1 自ら学び自ら考える 児童・生徒の育成	1	学校図書館教育支援員事業
		2 蔵らしい魅力ある 教育活動の展開	2	少人数学級推進事業
		4 学校給食の充実	3	食育の推進事業
		5 特別支援教育の充実	4	特別支援員配置事業
		6 教職員の指導力の向上と 人材の確保	5	教育センター教職員研修事業
		7 国際理解教育の充実	6	外国語教育等推進事業
	3 地域に根ざした教育の展開	1 家庭・学校・地域の連携	7	学校応援団事業
		4 家庭教育における 意識の向上	8	健やかメディア推進事業
2 生涯学習を支える 社会教育の充実	1 学習環境と学習機会の充実	2 多様な学習機会の提供	9	地区生涯学習フェスティバル事業
		4 図書館サービスの充実	10	図書資料の貸出(予約)事業
		6 家庭教育の支援	11	家庭教育学級事業(子育て広場、子育て学級)
	3 青少年の活動機会 などの充実	1 青少年の活動機会の充実	12	わらび学校土曜塾推進事業
		2 自然体験活動の充実	13	信濃わらび山荘管理運営事業
	4 芸術・文化活動の振興	2 芸術・文化活動の発表と 鑑賞機会の充実	14	蕨市公募美術展覧会事業
			15	音楽によるまちづくり事業(蕨市民音楽祭)
	5 歴史・文化の保存と活用	2 歴史民俗資料館における 事業の充実	16	特別展等開催事業
	6 人権・平和意識の高揚	3 市民の平和意識の高揚	17	平和事業
	3 どこでもだれもが 親しめる生涯 スポーツの充実	1 スポーツ・レクリエーション 活動の推進	2 多様なスポーツ・レクリエーション 機会の充実	18
2 スポーツ・レクリエーション 推進体制の充実		2 スポーツ団体の支援と 地域の人材活用	19	スポーツ・レクリエーション団体支援事業

Ⅲ 事務事業点検評価の結果

評価につきましては、各施策の目標が「達成されている」をA、「どちらかという達成されている」をB、「どちらかという達成されていない」をC、「達成されていない」をDとする4段階の評価で行いました。

全19事業のうち外部委員評価は、下表のとおり、A評価が14事業、B評価が5事業となり、教育委員会が外部委員の評価に先立って行った担当課評価と比較すると、概ね同様の結果となりました。

なお、外部委員評価では、目標達成に向けて今後も各事業の改善や充実に取り組み、より積極的に施策を推進・発展させるよう求める意見が多く見られました。

基本目標 施策	担当課評価				外部委員評価			
	A	B	C	D	A	B	C	D
1 学びあい高めあう 学校教育の充実	8	0	0	0	7	1	0	0
1 教育内容の充実	6	0	0	0	6	0	0	0
3 地域に根ざした教育の展開	2	0	0	0	1	1	0	0
2 生涯学習を支える 社会教育の充実	6	3	0	0	6	3	0	0
1 学習環境と学習機会の充実	2	1	0	0	2	1	0	0
3 青少年の活動機会 などの充実	0	2	0	0	0	2	0	0
4 芸術・文化活動の振興	2	0	0	0	2	0	0	0
5 歴史・文化の保存と活用	1	0	0	0	1	0	0	0
6 人権・平和意識の高揚	1	0	0	0	1	0	0	0
3 どこでもだれもが親しめる 生涯スポーツの充実	1	1	0	0	1	1	0	0
1 スポーツ・レクリエーション 活動の推進	1	0	0	0	1	0	0	0
2 スポーツ・レクリエーション 推進体制の充実	0	1	0	0	0	1	0	0
合 計	15	4	0	0	14	5	0	0

Ⅳ 今後の取り組みについて

蕨市教育委員会では、今回の外部評価でいただいたご意見、ご助言を事業の改善に生かしながら、『生きる力を育み ともに学び 未来を拓く蕨の教育』の推進に取り組んでいきます。

また、評価方法について見直しを図るなど、より分かりやすく的確に市民への説明責任を果たしていくことができるよう努めてまいります。

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	1	事業名	学校図書館教育支援員事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	1 自ら学び自ら考える児童・生徒の育成

事業の内容	学区内の小・中学校を巡回し、司書教諭や図書ボランティア等と連携をしながら、図書に関する専門的な知識を基に学校図書館教育を支援する（図書の選書・学校図書館の整備・学校図書館を活用した授業の支援）。
-------	---

事業の対象	蕨市立小・中学校
-------	----------

事業の目的・目指すべき姿	学校図書館教育の充実を図るため、図書の選定・学校図書館の整備・学校図書館を活用した授業の支援を行う。
--------------	--

取り組みにおける成果・効果について

支援員の業務内容は、図書室の整備・選書、読書活動推進への企画・授業等について、司書教諭と連携を図りながら協力し、学校図書館教育の支援を行うことである。

支援員を配置し教職員と連携することで、図書室の環境改善や読書推進啓発、図書室の利用促進を図ることができた。また、市立図書館の子ども読書活動推進計画事業の一環である小・中学生向けのブックリストを活用し、児童・生徒の読書活動の推進を図ることができた。

令和4年度については、蕨市立図書館の電子図書館サービスに加え、児童生徒向け電子書籍読み放題サービスの無料トライアルを活用したこともあり、学校図書館における児童・生徒1人あたりの貸し出し冊数は前年度を下回ったが、紙とデジタルを併用することにより、児童・生徒の読書活動について推進することができた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
1校当たりの活動日数（日）	62.5	62.5	62.5	62.5
児童・生徒1人当たりの貸出冊数（冊）	15.2	18.1	13.4	18.0
1校当たりの事業費（円）	407,961	428,942	421,113	434,100

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	2,749,610	2,959,416	2,881,132	3,011,000
	人件費	1,330,000	1,330,000	1,330,000	1,330,000
	合計	4,079,610	4,289,416	4,211,132	4,341,000

残されている課題・今後の取り組みについて

平成25年度に始まった本事業は順次採用枠を拡大しているが、支援員の志願者の確保が厳しい状況である。有資格者が応募者の条件とされていることにも関連があると考えられる。

今後も、近隣市の状況を把握しながら、応募条件等の見直しの検討が必要である。

現在は、2校に1名ずつ配置しており、支援員が常駐している状況ではない。1校当たりの活動日数や勤務時間等の検討を行うとともに、新規で採用された方と継続して勤務している方との連携を図る等、図書室の環境を充実させるための研修や、司書教諭と連携を図りながら課題を一つでも改善していきたいと考えている。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	支援員の配置によって、学校図書館の貸し出し冊数の増加、児童生徒の読書活動の活発化につながっている。教員、司書教諭との連携によって児童生徒の関心を把握することが支援員にとっての課題となる。定期的なコミュニケーションをはかり、児童生徒の関心に寄り添う支援のあり方を追求していただきたい。アナログとデジタルを上手に活用されていることに関心いたしました。どの業界でも人手不足は悩みの種だと思います。GIGAスクール化により通信インフラが整っていることでテレビ電話のようなツールを活用することで支援員が常駐しなくても済む方法もあるのではと思いました。今後も新しい活動に期待しております。

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	2	事業名	少人数学級推進事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	2 賑らしい魅力ある教育活動の展開

事業の内容	市費により教員を採用し、小学校第4～6学年における35人程度学級を実施する。
事業の対象	小学校第4～6学年のうち、県の基準による学級編制を行った場合35人を超える学級
事業の目的・目指すべき姿	小学校の学級編制の人数を35人程度以下とし、学級編制を少人数化することにより、学級担任の目が行き届いたきめ細かな教育指導を通して教育の質の向上させるとともに、業務の負担軽減を図る。

取り組みにおける成果・効果について	
<p>事業開始から13年間が経過し、本事業は市全体で定着している。学級担任の目が行き届くという点から児童への学習指導、生活指導の効果が高くなるため、事業の成果も大きい。平成30年度からは、教育センター主任指導員が市費教員の巡回指導を行い、指導力向上を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学級あたりの人数が二十数名となり、担任が一人一人の児童をより深く関わることができた。学習面では個別最適な指導の実現に向け、手立てが取りやすかった。基礎学力の定着（特に、算数の基礎学力の定着）など様々な場面で、個に応じたきめ細かな学習指導ができ、改善や向上、定着が見られた。 ・体験活動や発言機会等で児童が活躍する場を多く設定することができた。その過程で、個のよさを認め、励ますことができた。このことにより、児童の自己肯定感を高め、学習意欲を引き出すことができた。生徒指導上や特別支な配慮を要する児童が各学級に分散することにより、個別の課題の把握や対応がしやすかった。 ・当該学年の学校評価に係る児童アンケート結果の経年比較からは、「授業の分かりやすさ」「自主的な取組への支援」「教育相談」の項目において、前年度を上回る満足度が見られた。35人程度学級により、教員が学級の児童一人一人をきめ細やかに見ることができ、児童も教師からの指導・支援を実感していることが明らかになった。 ・標準編制の学級数と比較して、教員の事務処理の時間が短縮され、連絡帳、ノート、作品の点検と評価、教材研究や授業準備等に費やすことができた。その結果、保護者との連携による指導や支援を行うことができた。 	

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
35人程度実施学級数 (3～6学年学級数合計)	70	69	51	33
35人程度学級実施率（%）	100 (市費実施学級数5)	100 (市費実施学級数4)	100 (市費実施学級数3)	100 (市費実施学級数1)
1学級当たりの事業費（円）	357,544	335,976	359,914	276,909

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	21,718,113	19,872,324	15,045,637	5,828,000
	人件費	3,310,000	3,310,000	3,310,000	3,310,000
	合計	25,028,113	23,182,324	18,355,637	9,138,000

残されている課題・今後の取り組みについて	
<p>義務標準法の改正により、令和3年度より35人学級対象学年が1年生～2年生まで拡大され、令和7年度にかけて順次対象学年が拡大される。（令和5年度は、1年生～4年生が35人の標準編制）令和6年度以降の本市の少人数学級推進事業の在り方について研究を進める必要がある。本事業の有効性を一層高めるためには、優れた教員を該当校に配置することが肝要であるが、埼玉県南部地区では臨時的任用者の不足が課題である。少人数学級編制には、基本的に臨時的に任用教員を充てることになるため、適切な人材を確保するとともに、計画的な研修と、指導力の向上に努め学級担任の質の保証を図る必要がある。令和6年度で事業が終了となるため、学校教育の充実のための、今後の有効な事業形態の方向性を新たに定める必要がある。</p>	

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	<p>多様な児童、多忙な教員という実態の中で、市が独自に少人数学級を推進してきたことは高く評価される。人材の不足という課題は大きいですが、令和6年度の事業終了期にむけて少人数学級の教育上のメリットについて現場の評価を再確認し、継続可能な方法を検討していただきたい。／学力向上につながる良い活動だと思いました。保護者目線としては、少々目線がズレているかもしれませんが、ゆとりのある教育にはゆとりのある各個人の空間も必要だと思いますので、今後の施設設備の際には教室の大きさについてもご検討お願い致します。</p>

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	3	事業名	食育の推進事業
		担当部署	学校給食センター

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	4 学校給食の充実

事業の内容	栄養士による食に関する指導の実施、及び市内の農産物生産者により生産された地場産物を活用した給食の提供。
-------	---

事業の対象	市内全小・中学校の児童生徒
-------	---------------

事業の目的・目指すべき姿	給食の献立を作成する栄養士が学校を訪問し、児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導を学級活動及び給食時間に実施する。 また、蕨市のような住宅密集地の市内で野菜が生産されていることを身近に感じることで、食生活が食に関わる人々の活動によって支えられていることについて理解を深めるとともに、丹精込めて育てられた食材に感謝して、残さず食べようとする気持ちを育む。
--------------	---

取り組みにおける成果・効果について

栄養指導については児童・生徒の発達段階に応じた栄養指導を実施しており、健康的な食習慣の形成に寄与している。その一環として令和4年度中央小学校5年生を対象に実施した地元農家の方とのふれあい交流では、農家の方から農業の楽しさや苦労など生の声を聴き地産地消を身近に感じる事ができたのではないかと考えている。

地場産野菜は、蕨農産物直売所の方々の協力により、平成18年度から学校給食での提供が始まり、じゃがいも、玉葱などの野菜を多く取り入れており、給食には毎年たくさんの旬の野菜を使っていることを周知している。令和4年度地場産野菜の提供日数は減少したが、これは地場産野菜を提供する日が重なったため。地場産野菜の総使用量は令和3年度 2181.7kg から令和4年度 2229.5kgへ増加している。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
学校訪問栄養指導の回数	1	24	27	25
地場産物を活用した給食献立の提供日数	40	44	34	40
1日1人当たりの平均給食残量（g）	30.8	32.4	33.2	32.1

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	518,088	525,137	580,630	553,280
	人件費	1,988,000	3,525,000	3,478,000	3,501,000
	合計	2,506,088	4,050,137	4,058,630	4,054,280

残されている課題・今後の取り組みについて

子どもたちに対する食に関する指導は、成長期にある子どもにとって健やかに生きるための基礎を培うことを主な目的としており、望ましい食習慣の形成を促すことが重要である。栄養バランス等に配慮した食事を習慣的にとることの必要性について、各学校と連携し食に関する指導体制を計画的・継続的に実施していく必要がある。

地場産野菜については、耕地面積の減少傾向や市内農家数の減少などにより生産物の確保が難しい状況ではあるが、今後も安定して地場産野菜を活用できるよう、生産者団体である「わらび農産物直売所」に計画段階から参加してもらい、学校給食への理解・協力を求めていきたい。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	都市圏にあって地元産の食材による給食の実施は、栄養・健康面の効用にとどまらず、地場産業の振興、地域を身近に感じる児童たちへの教育的配慮という点で、地域に根ざす教育を推進する基盤となる。広い意味ではSDGsのめざす持続可能性を問う学びにつながる。農業人口の高齢化による困難もあるが、体験農園、市民農園なども視野に入れて、農業・環境保全への関心を育む食育推進に期待したい。／栄養バランスについては学校給食に頼ってしまっている保護者も多いと思いますので、非常に助かっている保護者は多いと思います。今後もさらに子どもたちへ地場産野菜を周知していただきたいです。

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	4	事業名	特別支援員配置事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	5 特別支援教育の充実

事業の内容	市費により特別支援教育支援員を採用し、特別な支援を必要とする児童生徒が通常の学級に在籍する学校に配置する。
事業の対象	通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒
事業の目的・目指すべき姿	各学校の在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対し、個に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図る。

取り組みにおける成果・効果について

小・中学校において、特別な配慮や支援が必要な児童生徒は年々増加傾向にあり、多様化している。特に小学校では、第1学年に特別支援教育支援員を配置し、授業中の学習支援だけでなく、休み時間の児童観察や給食時の配膳支援、清掃指導の支援など、児童生徒の基本的な生活習慣の確立や事故の防止に、支援員の補助が今や不可欠である。また、教員だけでは気付くことができない、児童生徒一人一人のわずかな状態の変化に気付いたり、早期対応が必要な細かな部分にも手を差し伸べるなど、特別支援員を配置することにより、多様化した個のニーズに適した、きめ細かな学習指導や安全確保等の充実が図られており、現在の教育現場で不可欠な個別の指導・支援が可能となっている。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
要支援児童・生徒数(人)	148	137	176	168
対象者1人当たりの支援員の数(人)	0.06	0.07	0.05	0.05
要支援児童・生徒数1人当たりの経費(円)	53,864	58,996	46,251	50,149

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	6,641,936	6,752,492	6,810,173	7,095,080
	人件費	1,330,000	1,330,000	1,330,000	1,330,000
	合計	7,971,936	8,082,492	8,140,173	8,425,080

残されている課題・今後の取り組みについて

年度当初に支援員を対象とした研修会を実施し、勤務する上での服務規律等の指導を行っている。しかし、個のニーズの多様化し、支援員が対応に苦慮する場面も少なくない。また、教室に入ることができない児童生徒や、教室外に飛び出してしまう児童など、教員ではなく、支援員が一人に対応しなければならない部分もある。そのため、支援員が児童生徒のために、よりよい支援を行うことができるよう事例研修や、特別支援教育の内容など、支援員対象の研修を実施することで、各学校に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対し、個に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図る。また、支援が必要な児童生徒が増加し、1校当たりの支援員の配置増を希望する学校もある。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	近年、特別支援を要する児童生徒が多様化しており、児童生徒数が増加傾向にある中で特別支援員配置のニーズは高まっている。他方で特別支援に対する他の児童生徒の受け止めもデリケートな問題である。多様性や困難について理解を深め、児童生徒間の交流や相互支援も含めてインクルーシブな教育環境の形成の課題を教員・保護者・児童生徒が共有する方向で特別支援教育の充実をはかることが期待される。／保護者からすると、非常に有難い支援です。その中で、子どもを思うが故に一線を越えた保護者の要望などもあり大変な活動だと思いますが、是非継続をお願い致します。

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	5	事業名	教育センター教職員研修事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	6 教職員の指導力の向上と人材の確保

事業の内容	教育センターにおいて、計画的・継続的な教職員の研修を実施する。
事業の対象	蕨市立小・中学校教職員
事業の目的・目指すべき姿	教育センターにおいて、計画的・継続的な研修を実施することにより、教職員一人一人の資質・指導力の向上を図る。

取り組みにおける成果・効果について

蕨市教育センターを開設し7年が経過した。教育支援センター（日々草学級）や日本語特別支援教室を使用していない時間を活用し、教職員のみならず、さわやか相談員、ALT等の研修を開催することができた。令和4年度にも、コロナ禍において、開催方法の変更等を行いながら、感染対策を講じつつ集合型での研修会やオンライン型の研修会を併せながら、教職員研修会を開催した。教育センターにおいて、計画的・継続的な教職員等の研修を実施したことで、一人一人の資質・指導力の向上を図ることができた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
年間研修実施回数	80	89	92	80
教職員等の年間研修参加延べ人数	1,126	1,299	1,290	1,200
研修1回当たりの事業費	217,780	191,877	149,963	216,438

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	16,181,378	15,836,061	12,555,560	16,074,000
	人件費	1,241,000	1,241,000	1,241,000	1,241,000
	合計	17,422,378	17,077,061	13,796,560	17,315,000

残されている課題・今後の取り組みについて

小・中学校とともに導入されたICT機器を活用し授業が行われている。令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から教員を集めての研修会を計画通りに進めることができない状況でもあったが、同時双方向型のソフトを使用するなど、形態を工夫しながら、研修を行ってきた。今後も、感染症の状況を見極めたり、業務改善の観点から形態を工夫したりしながら教職員一人一人の資質・指導力の向上を図っていく必要がある。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	教員の多忙化、中途退職者の増大、働き方改革などが課題となっている近年、教育センターの教職員研修は、単に専門性の向上、人材育成、経験年数に応じた再研修だけではなく、現場の課題を共有し、解決の支援を行なうという対話・相互学習の観点も重要になっている。ワークショップや少人数の意見交換、悩みを出しあえる場づくり、教員の多世代交流など、有意義な研修の工夫も課題である。／デジタル化により新しい道具を使った授業は必要となるため研修は必須だと思います。若手教員とベテラン教員の教育知識を連携する事で双方の技量の向上も図れると思いますので、引き続き活動をお願い致します。

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	6	事業名	外国語教育等推進事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	7 国際理解教育の充実

事業の内容	市費によるALT（外国語指導助手）の小・中学校全校配置、及び中学校2・3年生を対象とした英語4技能テスト（GTEC）の公費負担での実施。
事業の対象	市内小・中学校児童・生徒
事業の目的・目指すべき姿	市費により、ALT（外国語指導助手）を採用するとともに、小・中学校へ配置し、外国語及び国際理解教育を推進する。また、中学校2・3年生を対象に、教職員研修、GIGAスクール端末を活用した外国語学習等を組み合わせた英語4技能テスト（GTEC）を公費負担で実施し、蕨市の中学生の外国語活用能力の向上を図る。

取り組みにおける成果・効果について			
<p>ALT（外国語指導助手）については、月1回、市教委主催の全ALTを対象とした研修会や、夏季休業中に実施する小・中学校教員との合同研修等を通じて、指導力の向上を図ることができた。また、学期に1～2回の学校訪問等を通じて、配置校との連携も図ることができた。ALTについては、授業以外にも給食や清掃活動、クラブ活動など、様々な場面で児童生徒との交流を図っている。また、令和4年度より全中学校において実施となった姉妹都市であるアメリカのエルドラド郡の中・高校生とオンラインでの国際交流における支援や一部の小学校（中央小）でのルワンダの子供たちとのオンライン交流にも関わるなど、国際理解教育の推進に大きな役割を果たしている。</p> <p>また、令和3年度に引き続き、市内中学校2・3年生を対象として、英語4技能テスト（GTEC）を公費負担で実施し、蕨市の中学生の外国語活用能力を把握することができた。結果としては大変良好であり、教員研修においては、テストで得られた客観的なデータの分析等を通して、自校の生徒の外国語活用能力を把握するとともに、今後の指導改善に向けた研修を実施できた。</p>			

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
支援児童・生徒数	3,385	3,675	3,470	3,525
ALT1人当たりの支援児童生徒数	338.5	367.5	347.0	352.5
支援児童・生徒数1人当たりの経費(円)	10,908	11,450	11,824	12,261

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	35,901,866	41,029,884	39,980,207	42,169,000
	人件費	1,022,000	1,050,000	1,050,000	1,050,000
	合計	36,923,866	42,079,884	41,030,207	43,219,000

残されている課題・今後の取り組みについて	
<p>令和4年度においても、指導力のあるALTを確保し、各校に配置することができた。今後も継続的に優秀なALT確保に努めていく。</p> <p>また生徒の英語力については、毎年実施している「英語教育実施状況調査」において、CEFR-A1相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合は、平成27年度は31.6%であったが、令和4年度は65.2%となり、着実に力を付けてきているが、中学2・3年生を対象として実施しているGTECの結果を見ると、Speakingのレベルが、ReadingやWritingの技能と比較して低い値となっている。「英語教育実施状況調査」の中の「授業における、生徒の英語による言語活動の割合」の結果からも、小・中学校ともに「話すこと」にかかる時間の割合が他の活動と比べて少ないという現状も見られることから、話す技能を伸ばすことを意識した早急な授業改善が求められる。英語4技能テストを通して得られた情報を活用し、教員がALTとの効果的なチーム・ティーチングを通して、児童生徒の話す技能を伸ばすことを意識した授業改善ができるよう、引き続き支援していく。</p> <p>国際交流については、日々のALTの効果的な活用をはじめ、エルドラド郡の中・高校生との国際交流等を通して、引き続き子供たちの外国国際理解教育の推進を図っていく。</p>	

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	<p>グローバル化をみすえ、ALTの配置は生徒一人一人の英語能力の習得に大きな成果をもたらしている。語学力の向上、海外とのオンライン交流による国際理解教育によって国際化が進められてきた。他方、蕨市の小中学校には10数パーセントに及ぶ外国にルーツをもつ児童生徒が就学している。英語だけではなく多言語・多文化の実態がある。日本語習得の困難や日本の文化を理解する難しさを児童生徒達が経験的に交流する国際理解教育も課題となる。／英語力は、保護者から見ても子どもたちは受け入れやすい環境になっていると思いますので継続的な活動をお願いします。</p>

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	7	事業名	学校応援団事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	3 地域に根ざした教育の展開
	施策の展開・主な取り組み	1 家庭・学校・地域の連携

事業の内容	家庭・地域社会と協力した、各校における「学校応援団」組織による取り組みを実施する。
事業の対象	各学校（児童・生徒）及び学校に関わる家庭・地域社会の方々
事業の目的・目指すべき姿	学校・家庭・地域社会が一体となって取り組みを推進し、学校の活性化と家庭や地域の教育力の向上を図る。

取り組みにおける成果・効果について

蕨市では県の学校応援団事業に先駆け、学校ボランティア制度を取り入れ19年目を迎えた。各学校の学校応援団コーディネーターを中心に活動の充実・発展に努めている。現在では市内全小・中学校で学校応援団が周知されていることで、多くの保護者の協力を得ており、令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、活動内容の精査を行い、可能な範囲で実施をした。

具体的な活動内容については、教育環境の整備や児童・生徒の安全確保をはじめ、学習活動や体験活動、学校ファームへの支援等であり、コロナ禍において人数を制限するなどの対応を行い実施している。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
延べ事業数（件）	20	24	190	190
各校応援団人数（人）	705	775	1089	1020
1人当たりの事業費（円）	1,392	1,266.8	901.8	1,029

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	1,400	1,750	2,100	70,000
	人件費	980,000	980,000	980,000	980,000
	合計	981,400	981,750	982,100	1,050,000

残されている課題・今後の取り組みについて

ここ数年は、各校での学校応援団コーディネーターをPTA役員等をお願いしている傾向にある。学校応援団の調整等について、PTA関係の方をお願いするなど、コーディネーターの方への負担が大きくなるように努めている。

保護者や地域コミュニティ等多くの方にご理解、ご協力をいただいております。コーディネーターの趣旨を理解していただくとともに、研修や情報交換が行えるような場を設定して、負担の軽減を図って行く必要がある。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点で応援団人数を制限していたものが、学校と地域、家庭の実態に応じて、徐々に活動を再開してきた。今後、国のガイドライン等を考慮しつつ、実施していく必要がある。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	新型コロナにより、学校応援団の活動も限定された時期が続いたが、学校と地域連携の取り組みは20年近い実績があり、PTAとの連携により今後も重要な役割を果たすであろう。学校ボランティアという点ではシニア層や若者層など幅広い担い手も想定される。地域のボランティア団体、土曜塾などの学社連携事業などとも連携しながら、地域に支えられた学校づくりの取り組みがさらに広がるよう期待したい。／学校単位でサポートしてほしいことが異なるので良い活動だと思います。今後の取り組みにも記載されていますが、各校での活動内容について情報交換を行って頂き、より充実した活動にしてください。

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	8	事業名	健やかメディア推進事業
		担当部署	学校教育課 (生涯学習スポーツ課)
教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実	
	施策	3 地域に根ざした教育の展開	
	施策の展開・主な取り組み	4 家庭教育における意識の向上	
事業の内容	学校、家庭、地域の方々連携しながら健やかメディアの取り組みを進めるために、学校関係者や各団体関係者、地域の方々が集まり活動実践報告や講演を行う健やかメディア推進大会や、小学生を対象にした将棋大会の開催、健やかメディア指導員による出前講座を実施する。		
事業の対象	健やかメディア推進大会…学校関係者、各団体関係者、市民 小学生将棋大会…蕨市内小学生 出前講座 (健やかメディア指導員による)		
事業の目的・目指すべき姿	子供たちの健やかな成長のために、学校、家庭、地域の方々と連携しながら、今求められている電子メディアとの上手なかかわり方の取り組みを進める。		

取り組みにおける成果・効果について

(平成23年度制定)「アウトメディア宣言」から、令和4年8月23日「健やかメディア宣言」に改称し、ICT活用の時代において、子供たちの健やかな成長のために、目的を持って電子メディアを活用していきけるような取組を更に推進していくこととなった。学校・家庭・地域の方々連携しながら、健やかメディア推進大会、小学生将棋大会(健やかメディア推進事業)を継続実施していく。

令和4年度の推進大会は小学校の取組発表を会場で実施した(平成29年度より開始)。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小学生将棋大会は中止となった。健やかメディア指導員の「出前講座」は、西小学校・南小学校5・6年生を対象に実施した。

また新たに健やかメディア指導員・養護教諭等を対象に、健やかメディアの取組に活かすための、「ライフスキル(問題解決能力)」の手法の研修会を開催した。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	B
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度(実績)	令和3年度(実績)	令和4年度(実績)	令和5年度(見込み)
事業数(回)	代替事業 1	3	3	3
参加者数(人) (推進大会+将棋大会+出)	代替事業 231	345 (148+0+197)	490 (105+0+385)	500 (150+246+104)
参加者1人当たりの事業費(円)	0	6,691	4,842	4,833

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	0	58,350	122,800	166,670
	人件費	0	2,250,000	2,250,000	2,250,000
	合計	0	2,308,350	2,372,800	2,416,670

残されている課題・今後の取り組みについて

健やかメディア推進の中核である推進大会や小学生将棋大会を、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る対応をしながら実施し、小・中学校への啓発を継続できたので、今後は更に事業に参加できやすい工夫を行っていく(動画録画配信参加の併用、将棋大会の前の将棋教室の開催、出前講座の拡大等)。

指導員研修にライフスキル(問題解決能力)の手法を取入れたので、出前講座等の取組の中での具体的な対応の検討及び実践につなげていく。また、学校では、養護教諭・保健主事を中心に、健康を意識して、ICT機器を活用していきけるよう、取組内容を検討している。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	B	「アウトメディア」から「健やかメディア」へ事業名称を変更し、指導員対象に「ライフスキル」の研修を実施して再スタートをおこなった。そのことの趣旨は妥当といえるが、新たな趣旨を実現していく上で求められる事業の体系性、児童生徒の活動と指導員の研修のそれぞれの独自の意義などを明確化するという点で、今後の課題が残されている。/メディアとの付き合い方は日々変化し考え方が難しくなっていると感じています。子どものうちから正しいメディアとの付き合い方を周知いただけるのは保護者として安心につながりますので引き続き継続をお願い致します。

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	9	事業名	地区生涯学習フェスティバル事業		
		担当部署	公民館		
教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実			
	施策	1 学習環境と学習機会の充実			
	施策の展開・主な取り組み	2 多様な学習機会の提供			
事業の内容	公民館を利用している団体・クラブを中心として、地域の小中学校、高齢者クラブなど地域団体と共に、日頃の活動の成果発表や作品展示などを行う他、地区ごとに特色ある催しを実施することにより幅広い世代に生涯学習の推進を図る機会を提供する。				
事業の対象	生涯学習・地域団体及び市民				
事業の目的・目指すべき姿	生涯学習フェスティバルは公民館で活動する利用団体やクラブの成果発表の場であり、活動のモチベーションとなっている。更に、コンサートや模擬店、講座などを組み合わせることにより、団体間での交流の促進や、来館する地域住民との交流が図られ、公民館の認知度向上や、団体やクラブを知るきっかけとなり、公民館利用者の新規参入促進に役立っている。総じて地域の生涯学習推進のための大きな役割を担っている事業である。				
取り組みにおける成果・効果について					
令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染防止のため各地区において中止となったが、令和4年度は規模の縮小や飲食を伴う模擬店やフリーマーケットを中止するなど、感染対策を実施しながら3年ぶりに開催した。感染対策としてオープニングセレモニーに事前に録画した映像を流した地区があるなど、工夫しながらの開催となった。ワクチン接種は進んだものの、夏頃は感染者数も増え、団体としては練習期間が十分でないなどの理由から参加団体は限られた団体数となったが、中止でなく対面での実開催に漕ぎつけられ、地域の交流が進み賑わいが戻りつつあることを感じられるフェスティバルであった。					
取り組みに対する担当課評価		B	前回評価結果		B
参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）	
協力団体数（件）	0	0	157	240	
延べ来館者数（人）	0	0	8,144	10,411	
1人当たりの事業費（円）	0	0	516	466	
決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	0	0	630,000	630,000
	人件費	1,715,500	1,460,000	3,574,200	4,218,000
	合計	1,715,500	1,460,000	4,204,200	4,848,000
残されている課題・今後の取り組みについて					
新型コロナウイルスのため、令和2年度、3年度と連続で中止となり、コロナ禍で休止や解散してしまった団体等もあり、元の賑わいを取り戻すことが課題であったが、令和4年度は公民館活動としてもコロナ禍から日常生活の再開に進む中で、フェスティバルも3年ぶりに再開ができた。令和5年度も感染症対策をしながら、参加団体数もコロナ前の水準に戻していきたい。また、ネットを利用したオンライン講座など、公民館に集まらなくても参加できる取り組み方法についても取り組むべき課題であるが、令和5年度より公民館でのWiFi利用を実証実験として試行するなど、公民館のDX化についても取り組みが開始されており、普段の活動やフェスティバルに活かせるよう研究をしている。					
外部委員評価	評価結果		評価コメント		
	B	公民館を利用する団体の成果発表と交流、地域住民への参加機会の拡大という点で不可欠の事業であるが、コロナで休止を余儀なくされ、ようやく再開されて活気を取り戻している。コロナ禍がもたらした分断や孤立化などが団体活動にも影響を及ぼしており、より深くコロナ禍と公民館活動のあり方、団体活動の今後を考えていく必要がある。交流にとどまらず市民生活と公民館や団体活動のあり方に目を向けてフェスティバルの意義を検討することも課題といえる。／良い意味でコロナにより、イベントに対する考え方に変化が生じたと感じております。屋外だけのイベントだけでなくWEB開催により開催場所を問わないイベントも増やせると思いますので、今後の活動も期待しております。			

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	10	事業名	図書資料の貸出（予約）事業
		担当部署	図書館

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	1 学習環境と学習機会の充実
	施策の展開・主な取り組み	4 図書館サービスの充実

事業の内容	図書資料等の貸出・予約、県内公立図書館ネットワークによる相互貸借制度の活用
事業の対象	市内に在住・在勤・在学する者のほか、川口市、戸田市、草加市及びさいたま市に在住する者
事業の目的・目指すべき姿	<p>[事業の目的] 利用者の多様なニーズに応え、教養の向上、レクリエーションおよび日常生活に役立つ資料などを幅広く収集し、提供する。</p> <p>[目指すべき姿] 高度化、多様化する情報について、図書資料をより多く収集することにより、利用者の教育と文化の発展に寄与する。</p>

取り組みにおける成果・効果について	
<p>【わらび電子図書館サービスの開始】 令和4年8月1日より、データ化された電子書籍をインターネット経由でスマートフォンやパソコンなどで、24時間いつでも読書できる環境を提供する「わらび電子図書館サービス」を開始した。あわせて、市内小・中学校の全校児童・生徒に、それぞれわらび電子図書館の学校用IDを配布し、学校での朝読書の時間等で活用いただけるサービスを11月1日より開始した。</p> <p>【推奨図書リストの改訂・発行】 公立保育園保育士、各学校の司書教諭、学校図書館教育支援員、図書館職員が選んだ改訂版推奨図書リストを4月1日に発行した（乳幼児編・小学生編・中学生編の3種類）。</p>	

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
年間実利用者数（人）	7,695	9,016	9,010	9,500
年間貸出件数（件）	279,765	381,693	356,034	400,000
年間予約件数（件）	39,642	37,975	35,523	38,000

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	34,221,114	36,661,488	42,978,671	41,258,000
	人件費	39,010,000	41,050,000	42,920,000	42,920,000
	合計	73,231,114	77,711,488	85,898,671	84,178,000

残されている課題・今後の取り組みについて	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は令和3年度に比べて年間貸出件数が微減してしまいましたが、令和5年7月1日より貸出件数を倍増する予定であり、令和5年度実績は増加するものと見込んでいます。 ・第2次子ども読書活動推進計画が令和6年5月末に計画期間の満了を迎えることから、今年度当初に第3次計画の策定のための計画策定委員会を設置した。今後は小中学校生を対象としたアンケートの配布や市民向けパブリックコメントの実施等、策定に向けた準備を進めていく。 ・子ども対象のアニメ映画会を年7回開催しているが大人向けの映画会は永らく開催していなかった。今年度は大人向けの映画会を7月と11月に開催することで、より多くの方に映画を楽しんでいただく機会とする。 	

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	<p>学校・保育園の支援員とも連携しつつ子ども読書活動推進をはかってきた実績は高く評価される。アニメ映画会もつながりを広げる点で有意義な取り組みである。第3次計画では、さらに新たな課題に目を向け、電子書籍の普及、外国人の利用、高齢者福祉施設との連携など、社会の変化の中で多様な子ども・市民層の読書活動の広がりや配慮して図書館サービスの充実をはかる方向を模索していただきたい。／電子図書化は良い活動だと思います。多国籍の方もいらっしゃるの、喜ばれるシステムだと思います。次回からでも良いので電子図書での結果も掲載して頂きたいです。</p>

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	11	事業名	家庭教育学級事業（子育て広場、子育て学級）
		担当部署	公民館

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	1 学習環境と学習機会の充実
	施策の展開・主な取り組み	6 家庭教育の支援

事業の内容	サロン方式や、リトミック、応急処置、工作、調理、クリスマス会などの季節イベントなどさまざまな事業を通して、乳幼児をもつ保護者の学習環境と学習機会の充実を図る。
事業の対象	乳幼児をもつ親（子どもの年齢を特定した講座と、0～2歳児というように年齢の幅をもたせたものがある）
事業の目的・目指すべき姿	主に3才児以下の乳幼児をもつ保護者を対象に、子どもたちの健やかな成長と発達を促すため、学習機会を提供するとともに、学習への参加を促進する。また保護者が気軽に集え、交流や情報交換ができる場として、子育て環境の充実を図ることを目的とする。

取り組みにおける成果・効果について			
<p>全公民館とも子育て広場、子育て学級は事業の柱に位置付けている。主に2・3歳児の保護者を対象にした講座が中心であるが、0歳から2歳など年齢に幅をもたせた講座も充実してきている。様々な分野の子育てに関する学習機会を提供するとともに、親子で一緒に遊んだり運動したり親子のふれあいの場ともなっている。</p> <p>また、乳幼児を持つ親同士が子育ての喜びや不安、悩みなどを共有し、情報交換、交流の場を提供することで、孤立化を防ぎ、地域でのつながりにも寄与している。</p>			

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
7館の家庭教育学級回数(回)	96	198	219	223
事業に参加した延べ人数(人)	1,564	2,799	3,143	4,135
参加者1人当たりの事業費(円)	952	1,272	1,250	994

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	591,149	1,619,544	1,877,624	2,090,122
	人件費	897,356	1,939,451	2,050,555	2,019,249
	合計	1,488,505	3,558,995	3,928,179	4,109,371

残されている課題・今後の取り組みについて	
<p>対象を保育園・幼稚園入園前の乳幼児をもつ保護者としているが、幼稚園のプレ保育等への参加が増加傾向にあり、参加者が減少している。父親も参加しやすい内容や日程を検討するなど、事業内容、対象者、日程等、検討見直しを図るとともに、初めて参加される方も、スムーズに輪の中に入れていけるよう、よりリラックスした空間を作る工夫も必要であると考えます。</p> <p>また、児童館などの近隣の子育て施設の事業と対象年齢が重複していることもあり、参加者減少の解消を図るため、児童館と公民館の特性を生かした事業内容で合同事業の開催も検討している。</p>	

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	A	<p>幼児をもつ保護者が親子で地域で交流する機会をもち、互いに支え合う子育て広場として定着しており、今後の発展が期待される。父親の参加、外国人家族への働きかけなどに工夫が求められるが、本来の趣旨である保護者の学び合いという側面が弱くなっているようにも見受けられる。乳幼児対象に限定せず、PTAとの連携、不登校支援ボランティアの交流、障害を持つ子どもの親同士のつながりなど、家庭教育学級としての学び・対話も視野に入れた推進が課題と言える。／子育てする保護者としては、こうした事業が心強かったことを覚えております。初めて子育てをする保護者同士の面談の場は、保護者の安心できる場所になっていると思います。これからも活発に活動して頂きたいです。子どもだけでなく保護者へのケアも今後ともお願いします。</p>

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	12	事業名	わらび学校土曜塾推進事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	3 青少年の活動機会などの充実
	施策の展開・主な取り組み	1 青少年の活動機会の充実

事業の内容	土曜日に小学校施設を使用し、子供たちの自主学習（宿題、課題等）の支援や、体験学習等を行う。運営は各小学校区に設置した実行委員会で行う。また、スタッフは元教員や大学生、地域の方が務める。
-------	--

事業の対象	実施する小学校に在籍する3学年から6学年の児童 ※平成25年度は3小学校区（東・西・南小）、26年度から全7小学校区で実施
-------	--

事業の目的・目指すべき姿	地域及び家庭が連携協力し、子供たちの自主学習及び体験学習等を通して学ぶ楽しさを教え、学習習慣の定着及び基礎学力の向上を図る。
--------------	--

取り組みにおける成果・効果について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から4月からの開設を見送り、全小学校区5月より開始した。本来は小学校内での開催を原則としていたが、コロナ禍の状況を踏まえ、スタッフの方が運営しやすい体制を一番に考えた結果、公民館を会場に開催した小学校区もあった。しかし、一部の参加者は通いなれた学校が会場でないことや公民館によっては市域の外れに設置されていることもあり、学校内での開催を望む声もあった。コロナ前と比較すると、全体的に参加者数は少なかったがスタッフの目が個々に行き届くこともあり、より親密な学習支援ができたため参加者及び保護者からは好評であった。本事業は、行政・家庭・地域が連携協力し、子供を育む環境づくりを推進するためには効果的な事業であると考えているため、引き続き、関係機関と連携を図り実施してまいりたい。

取り組みに対する担当課評価	B	前回評価結果	B
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
開設日数（日）	0	53	135	150
参加登録者数（人）	87（予定）	61	88	171
スタッフ登録者数（人）	100	92	93	100

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	248,438	1,843,299	3,658,940	6,451,000
	人件費	1,349,000	1,650,000	1,776,000	2,368,000
	合計	1,597,438	3,493,299	5,434,940	8,819,000

残されている課題・今後の取り組みについて

年1回から2回開催するわらび学校土曜塾運営委員会において、より多くの子供達に参加してもらう取り組みを検討したところ、募集チラシの再考、申込方法の簡略化、広報蔵への掲載、学校メール（コドモン）での周知等があげられた。これらを実践し、今後、本事業の周知に努めてまいりたい。また、近年では日本語が通じにくい参加者や保護者が見受けられ、スタッフが対応に苦慮しているため、デジタル翻訳機等を活用するなどして対応してまいりたい。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	B	学校五日制対応の事業として、多様なボランティアスタッフの参加を得ながら定着している事業であり、学校の授業とは異なるふれあいの中で学びの楽しさを体験することができる。コロナで従来の開催方法が困難となっているが、遠からず従来の形態に戻るであろう。外国にルーツをもつ子どもたち、学習困難をかかえた子どもたちに寄り添う専門的な対応が求められるとともにボランティアの人材確保の課題もある。学校応援団などと連携し、高校生・若者層の参加、特にデジタルの活用場面への協力など、新たな展開も期待される。／高学年に近づくほど勉強が難しくなるので非常に良い活動だと思います。デジタル化が進んでいるので是非学校メール（コドモン）で周知頂き、継続的に活動をお願い致します。

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	13	事業名	信濃わらび山荘管理運営事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	3 青少年の活動機会などの充実
	施策の展開・主な取り組み	2 自然体験活動の充実

事業の内容	野外活動ができる施設の提供
事業の対象	青少年団体・一般市民及び市外の方
事業の目的・目指すべき姿	恵まれた自然環境の中で、集団宿泊による野外活動を通じて、青少年の健全な育成を図るとともに、市民の憩いの場を提供し、健康の増進を図る。

取り組みにおける成果・効果について			
<p>令和4年度は、コロナ禍で利用がなかった青少年団体の活動に再開の兆しが見受けられ、延べ3団体の利用実績があった。施設の利用率促進を図る目的で実施している「山菜まつりバスツアー」「親子レタス朝採り体験教室」「紅葉ツアー」については、新型コロナウイルスの影響を鑑み、全て中止とした。林間学校については、1泊2日と限られた日程と信濃わらび山荘までの距離がネックとなり、令和3年度からは市内全ての小学校で他の類似施設へ利用場所を変更している。</p>			

取り組みに対する担当課評価	B	前回評価結果	B
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
開館日数（日）	145	145	205	205
利用延べ人数（人）	778	733	1,419	1,600
利用者1人当たりの事業費（円）	26,714	26,195	17,298	16,483

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	17,801,708	17,850,817	21,396,571	23,265,000
	人件費	2,982,000	1,350,000	3,150,000	3,108,000
	合計	20,783,708	19,200,817	24,546,571	26,373,000

残されている課題・今後の取り組みについて	
<p>築35年以上が経過している施設であるため、施設設備の老朽化がすすんでおり『配管からの漏水』や『木材の腐敗』『メーカー修理部品生産終了に伴う部品の調達が困難』な状況にあり、今後の維持管理が困難になってきている。『テラスデッキ雛壇』および『宿泊棟前の手すり付近』の2箇所については、木材の腐敗も見られ、一部を立ち入り禁止として運営している。立ち入り可能であった部分についても、令和5年度の開館準備の際に担当職員が点検を行い、部分的に基礎の補強工事を行った。</p> <p>これら老朽化対策については、今後大規模な修繕を伴わなければならないため、多額の経費を要す事や、利用者数の大幅な減少（林間学校が他の類似施設へ全校移行）、蕨市公共施設等総合管理計画で示されている総量抑制の方針にも照らした結果、令和5年度の営業をもって廃止とする方向で進めている。</p>	

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	B	<p>長年継続されてきた有意義な事業であるが、老朽化に伴う廃止の判断はやむをえない。学校の児童生徒、あるいは青少年団体の自然体験活動、都市・農村交流は欠かすことができないため、学校・青少年団体が引き続き市教育委員会の情報提供・支援を受けながらこうした活動を継続しうる方途を模索していただきたい。／非常に残念な結果ですが、今後の違った形で市に貢献できる事業にしていだけますと幸いです。</p>

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	14	事業名	蕨市公募美術展覧会事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	4 芸術・文化活動の振興
	施策の展開・主な取り組み	2 芸術・文化活動の発表と鑑賞機会の充実

事業の内容	蕨市・蕨市教育委員会・蕨市文化協会が主催。応募作品について審査を行い、入選作品の展示を行う。なお、審査のうえ、優秀な作品には褒賞を行う（知事賞、市長賞、教育長賞、文化協会会長賞等）。また、招待作品（片品村や市内中学生の作品）の展示も行う。
-------	---

事業の対象	作品の応募は、市民及び市内在勤在学者で16歳以上の者又は蕨市内の文化団体会員 展示期間中の観覧は自由（入場無料）
-------	---

事業の目的・目指すべき姿	広く市民の芸術文化への理解と創造力の啓発を図り、豊かな人間性を養い、郷土文化の振興に寄与する。
--------------	---

取り組みにおける成果・効果について

「市民でつくる美術展覧会」の意識を醸成し、若年層への芸術文化の浸透を図るため、5部門（絵画・彫刻・工芸・写真・書道）による作品の公募を行い、「くるる」にて展覧会を開催し、優秀な作品には褒賞を行っている。令和4年度は例年通りの5部門で開催したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から会期を通常の5日間から4日間、開催時間を午前10時から午後4時に縮小した。また、昨年は実現できなかった審査員による作品の講評も実施することができた。広報蕨の特集に蕨市文化協会会長が取り上げられたことから、絵画部門において新たな若手の出品者があり、さらにその出品者が賞を受賞したことは展覧会への来場者の若年齢化にも影響があった。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
出品数	58	142	167	215
観覧者数	0	730	1,000	1,200
-	-	-	-	-

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	200,000	229,410	217,116	236,445
	人件費	985,500	1,012,500	999,000	925,000
	合計	1,185,500	1,241,910	1,216,116	1,161,445

残されている課題・今後の取り組みについて

新型コロナウイルスの終息が見え始めたこともあり、出品数・観覧者数ともに大幅な伸びがあり、久しぶりに活気のある展覧会を開催できた。しかし、依然として課題である市民の創作意識を高められる工夫を継続的に研究するほか、スタッフを務めている文化協会会員の高齢化が顕著に表れていることから、後進の育成について考えていく必要がある。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	蕨市文化協会が市と共催して公募美術展に取り組んでおり、コロナ禍を経て出品数や観覧者数の大幅に増加していることは高く評価される。作品を公募する5部門について、学校との連携はひろんのこと、公民館の講座や文化サークルとも連携し、作品の創作・優秀作品の鑑賞への関心を日常化していくことも求められる。文化協会が優秀作品を紹介するフォーラムなどを開き、多様な年齢層が文化協会の活動に関心をもつよう、団体の活性化も期待したい。／継続頂きたい分野ですので、運営を継続するためにも新しいスタッフ育成・活動をお願いします。

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	15	事業名	音楽によるまちづくり事業（蕨市民音楽祭）
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	4 芸術・文化活動の振興
	施策の展開・主な取り組み	2 芸術・文化活動の発表と鑑賞機会の充実

事業の内容	音楽によるまちづくり事業の中心的な位置づけとなる個別事業として、蕨市民音楽祭を開催する。市民が音楽に触れ合うことができる環境を提供し、地域の活性化や芸術文化の振興につなげていく。
事業の対象	市内外の方
事業の目的・目指すべき姿	音楽を通じた蕨市の芸術文化の振興とその推進を図るとともに、音楽により蕨のまちの魅力を発信することで賑わいを創出し、蕨市のイメージアップを図る。

取り組みにおける成果・効果について

平成29年度から、市内各所で魅力あるプログラム（プロの演奏、アマチュアバンド、吹奏楽等）のコンサートを実施することにより、市民が一日中さまざまな音楽を楽しむことができ、市内外より多くの方が各会場に集まることで賑わいを創出することを目的に開催してきた。令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながらではあったが、8イベントを有観客で実施することができた。新たな取り組みとして、蕨高校軽音楽部に参加を呼びかけ、同高卒業生のプロミュージシャンによる指導を春先より受けたその成果発表をこの音楽祭で行ったほか、誰でも参加できるワークショップ「ドラムサークル」を実施した。出演者からは「コロナ禍の中での運営はとても大変だったと思うが、有観客で開催してくれたことに感謝している。」「お客さんの前で久しぶりの演奏で、緊張したが充実感があった。」「蕨市民の情熱と活気が感じられた素晴らしいイベントだった。観客の方から『元気をもらった』『感動した』と、たくさん声をかけてもらえてうれしかった。」との声があった。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
出演者数	45	242	380	570
参加者数	112	554	2,221	3,332
イベント数	3	8	8	12

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	1,887,149	2,611,526	2,700,000	2,700,000
	人件費	1,845,982	2,143,312	1,923,981	1,677,317
	合計	3,733,131	4,754,838	4,623,981	4,377,317

残されている課題・今後の取り組みについて

令和4年度の本事業実施後、実行委員会より「新型コロナウイルスが終息することもあり、本事業をさらに盛り上げるため飲食や物販の模擬店を復活させたい。」との意見があった。理由として音楽イベントだけでは、音楽が好きな方、出演者の関係者のみの参集しか見込めないため、それ以外の観客層を呼び込むためのツールとして模擬店は不可欠である。また、他のイベントや施設と連携を図り、音楽をツールとして、まちの賑わい創出と市民活動の活性化につながるような取り組みとした。今後も音楽に興味がない方や子供、障害のある方にも参加・観覧してもらえるような工夫と特定の音楽ジャンルに捉われず、広く多くの市民の方に楽しんでもらえるような企画・運営に努めていくとともに、市外からの集客も得られるようなPR方法の検討を行ってまいりたい。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	蕨市民の連帯、商店街の活性化、多様な表現活動へのきっかけづくりとしてきわめて大きな意義を持つ事業である。賑わい創出という事業効果、蕨のまちづくりへの市民の関心を高めるという点でも今後のさらなる発展を期待したい。音楽を生活の場での表現、楽しさという面でもとらえると、ミュージカル・朗読劇、民謡・民俗芸能、外国の民族音楽などの多様な表現活動へと広がる。開催年度の特別事業として、地方や海外の交流都市のオンライン出演企画、創作音楽作品公募など市民企画を含むいっそうの創意工夫も期待される。／音楽の力は、言葉では伝わりにくく聴いて体で感じ取って知ることしかできないので継続的な活動をお願い致します。蕨市は他国籍の方が多いため各国の分野の音楽を検討お願い致します。

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	16	事業名	特別展等開催事業
		担当部署	歴史民俗資料館

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	5 歴史・文化の保存と活用
	施策の展開・主な取り組み	2 歴史民俗資料館における事業の充実

事業の内容	特別展として、蕨市や近隣市にゆかりのある芸術家の作品の紹介や、蕨市の歴史・文化に関する展覧会を開催するほか、小学生を対象とした体験講座等を実施する。
事業の対象	歴史民俗資料館及び歴史民俗資料館分館の来館者
事業の目的・目指すべき姿	魅力ある展覧会や講座等を企画することで、幅広い年齢層の市民の来館を促し、蕨市の歴史・文化に触れる機会の充実を図る。

取り組みにおける成果・効果について

第42回特別展「塚越づくし！～歴史と伝統 心意気～」(令和5年2/25～4/30)では、塚越地区の歴史に焦点を当てた展覧会を開催。市指定文化財を含む貴重な資料が初展示となり、多くの方々にご来館いただきました。

オータムギャラリー2022「アトリエWarabi Vol. 2～11組のアーティストたち～」(令和4年10/26～12/25)では、当館の小学生対象の体験講座講師11組による作品展を開催し、ファミリー層の来館も多く見受けられました。会期中に開催された「宿場まつり」(令和4年11/3)では、初めてワークショップを開催し、大盛況であった。

そのほか、小学生対象の体験講座については、新型コロナウイルス感染防止対策として参加人数を限定し、年間3期(計13講座)に分散して実施。各講座とも抽選となる人気ぶりであった。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度(実績)	令和3年度(実績)	令和4年度(実績)	令和5年度(見込み)
展覧会の開催数(回)	2	3	2	2
利用者数(人)	11,068	25,434	17,967	18,000
1人あたりの事業費(円)	212	90	127	138

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	1,370,600	1,263,900	1,271,430	1,469,270
	人件費	972,602	1,027,397	1,013,699	1,013,699
	合計	2,343,202	2,291,297	2,285,129	2,482,969

残されている課題・今後の取り組みについて

蕨市の歴史や文化のほか、蕨市及び近隣市にゆかりのある芸術家やアマチュア作家等の人材発掘に力を入れ、様々なジャンルをテーマにした展覧会を企画する。

小学生対象の体験講座については、特別展等で展覧会を開催した作家を講師に招くなど、資料館独自の魅力ある講座を企画することで、更なる若年層の来館を目指していく。

また、「宿場まつり」や「苗木市」の際には、ワークショップを開催するなど、市内外を問わず多くの方々に来館していただけるような事業を展開していく。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	蕨市の歴史を子どもから大人まで体験を含めて学び、宿場まつりとも連携して多くの市民がつどう事業として定着している。小学生対象のワークショップの企画も新たな魅力となっている。流動性の大きい首都圏の都市であるが、歴史に触れることで市民の地域意識を高める意義も大きい。各地の歴史資料館ではガイドボランティア養成による市民参加型事業も注目される。「宿場案内人」などさらに多様な市民層の担い手形成への広がり期待される。／蕨市の歴史も含め、市外の方にも周知いただけるよう活動をお願い致します。

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	17	事業名	平和事業
		担当部署	公民館（歴史民俗資料館）

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	6 人権・平和意識の高揚
	施策の展開・主な取り組み	3 市民の平和意識の高揚

事業の内容	公民館や図書館、歴史民俗資料館など市内社会教育施設において平和事業（パネル展・平和コンサート・講演会・母子像清掃等）を開催することで、平和の尊さや戦争の悲劇を後世に伝えていく。
-------	--

事業の対象	市民・施設利用者
-------	----------

事業の目的・目指すべき姿	戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える取り組みを進め、市民の平和を愛する心を育み、平和で豊かな社会を次の世代に引き継いでいくことを目的とする。
--------------	--

取り組みにおける成果・効果について

蕨市は第二次世界大戦末期に3度にわたる空襲を受け、埼玉県下では熊谷市に次いで2番目に大きな被害を受けた歴史をもつことから、市を挙げて平和事業を行っており、市内各社会教育施設においても同事業を実施している。令和4年度は前年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、各公民館ではそれぞれ特徴ある対面式のイベントを再開し、『平和についての写真パネル展』の他、『平和の願いを込めたコンサートや講演会』、埼玉県平和資料館への『平和のバスツアー』や蕨市民公園での『平和の母子像清掃』など、数多くのイベントを実施した。また、歴史民俗資料館や市立図書館でも「平和祈念展」や「資料展示」を開催しており、戦時下における様々なモノにまつわる歴史を紹介した『戦時下のモノがたり』は多数の来館者を集め、戦争の悲劇や平和の尊さについて考え、次世代の平和意識の高揚を図ることにつなげることができた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
開催数（回）	124	146	163	102
平和事業の延参加者数	1,295	1,793	4,749	4,017
平和事業に参加した市民の割合	1.73%	2.39%	6.33%	5.36%

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	4,490	41,676	182,796	218,592
	人件費	270,333	571,126	888,313	900,053
	合計	274,823	612,802	1,071,109	1,118,645

残されている課題・今後の取り組みについて

終戦から80年近くが過ぎて戦争を体験した世代が高齢となり、その戦争体験を後世に伝えて行くことが難しくなってきたが、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えるため、引き続き様々な方法で平和について情報発信していかなければならない。
また一方で、今も海外では「ロシアによるウクライナへの軍事侵攻」や経済問題や宗教文化の違いで様々な「地域紛争」「民族紛争」が起きている。インターネットが発達しテレビやSNS等でリアルタイムに簡単に情報入手できる時代ではあるが、『平和事業』という観点から各世代にアプローチできるような事業を企画していくことが必要である。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	ウクライナ侵攻によって、平和への関心が単に「過去の戦争体験を語り継ぐ」だけではなく、二度と戦争してはいけないという国民意識の高まりをもたらしている。世代交代が進む今こそ活発な平和事業の取り組みで次世代形成への可能性を期待したい。学校、青少年団体とも連携し、若者・中高校生が単に受け身ではなく主体として平和事業に参加し企画する場を広げていくこと、蕨市民音楽祭や歴史民俗資料館事業とも連携するなど、蕨市の社会教育の実績を活用したさらなる展開を期待したい。／語り繋いで行くことは非常に難しいことですが、ぜひ継続いただきたいです。可能であれば、体験者のコメントを動画などで残して今後の活動に活かして頂けると良いと思いました。

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	18	事業名	スポーツ・レクリエーション推進事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	3 どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実
	施策	1 スポーツ・レクリエーション活動の推進
	施策の展開・主な取り組み	2 多様なスポーツ・レクリエーション機会の充実

事業の内容	温水プールの借上げ事業等を実施し、市民の健康増進、体力向上を図る。また、スポーツ協会への委託事業として、水泳大会、ロードレースを開催する。
事業の対象	市民
事業の目的・目指すべき姿	市民の健康増進・体力向上を図るため、だれもがスポーツ・レクリエーションに親しむことができる機会の充実を図ることを目的とする。 運動・スポーツを週に1回以上の実施率向上を目指したい。

取り組みにおける成果・効果について			
<p>コロナ禍で中止となった事業等もあったが、感染対策を行い、実施にこぎつけた事業も多くあった。温水プール借上げ事業については、昨年度に引き続き感染対策を行い実施し、コロナ禍前と同程度の参加をいただいております。市民の健康増進につながったと認識している。</p> <p>少年スポーツ教室は、蕨市が舞台となった女子サッカー漫画「さよなら私のクラマー」と連携した取組として、児童を対象にサッカー体験会を実施した。元プロサッカー選手が直接指導し、未経験の児童にサッカーの楽しさを伝えることができた。水泳大会については、3年ぶりの開催となった。これまで会場として利用していた塚越小学校プールが授業の割振りにより使用が難しくなったため、市内の民間スポーツクラブのプールを借りての実施となった。屋内プールのため、参加者は雨天や想定以上の暑さを心配することなく、競技を楽しむことができた。</p> <p>ロードレース大会については、開催を予定していたが、コロナ禍により中止となった。</p>			

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
市主催（共催）事業数	1	2	3	5
実施回数	48	107	101	176
参加者延べ数（人）	590	3,333	2,847	3,460

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	2,200,000	12,261,088	2,802,218	4,995,000
	人件費	4,899,000	5,175,000	5,106,000	5,106,000
	合計	7,099,000	17,436,088	7,908,218	10,101,000

残されている課題・今後の取り組みについて	
<p>漫画「さよなら私のクラマー」と連携した取組として女子サッカーに興味を持った児童を対象に、令和5年度は新たな試みとして「女子サッカー教室」を開催し、スポーツのすそ野を広げたいと考えている。</p> <p>民間温水プール借上げ事業の更なる拡充を検討していく。</p> <p>ポストコロナで、今まで中止としていた事業の再開に当たっては、円滑に実施できるよう各関連スポーツ・レクリエーション団体や市民体育館指定管理者と協力していく。</p>	

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	<p>市民スポーツ活動の環境整備、「さよなら私のクラマー」を活用したユニークな取り組みなど、コロナ禍のもとでも着実に市民スポーツ活動の支援がおこなわれている。他方、厳しい気候条件により、夏には学校も含めて熱中症の発症も増えている。スポーツ団体がどのような健康管理の下でスポーツ活動を継続しうるか、高齢者の怪我や病気と安全なスポーツなど、医療・保健衛生面の専門的な研修をおこない、安心安全なスポーツを普及することも支援の課題と言える。／年齢層に関わらずスポーツは、健康のために必要ですので継続的に活動をお願い致します。ただ夏場の熱中症対策だけは周知徹底をいただきますようお願い致します。</p>

令和5年度 事務事業点検評価シート

事業番号	19	事業名	スポーツ・レクリエーション団体支援事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	3 どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実
	施策	2 スポーツ・レクリエーション推進体制の充実
	施策の展開・主な取り組み	2 スポーツ団体の支援と地域の人材活用

事業の内容	スポーツ協会への補助金交付及び、活動・運営に対するの支援を行う。
事業の対象	蕨市スポーツ協会
事業の目的・目指すべき姿	幅広い年代の市民が参加できるスポーツ・レクリエーション行事の実施及び各団体活動のいっそうの充実を図るため、必要な支援を行うもの。

取り組みにおける成果・効果について

蕨市スポーツ協会への補助金交付や事務局を担当することで、協会の活動支援を行っている。これにより、各競技団体及び地域5支部の活動や年間を通じた各種スポーツ行事により、市民へスポーツ・レクリエーションの機会を提供し、生涯スポーツの推進を図っている。

例年、スポーツ協会支部球技大会、スポーツフェア、水泳大会、市民体育祭、ロードレース大会、スキー大会を開催している。令和4年度はコロナ禍による影響で、中止となる事業が多くあったが、南町支部と塚越支部の球技大会、水泳大会、スキー大会は開催できた。

取り組みに対する担当課評価	B	前回評価結果	B
---------------	---	--------	---

参考指標	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（実績）	令和5年度（見込み）
スポーツ協会主催（共催）事業数	0	1	4	14
参加者延べ数（人）	0	290	668	5,000
加盟団体数（支部含む）	28	28	28	28

決算額の状況	年度	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 決算額(円)	令和5年度 予算額(円)
	事業費	2,520,000	2,520,000	2,520,000	2,520,000
	人件費	3,692,000	3,900,000	3,848,000	3,848,000
	合計	6,212,000	6,420,000	6,368,000	6,368,000

残されている課題・今後の取り組みについて

ポストコロナで、今まで中止としていた事業の再開に当たっては、協会及び各加盟団体が円滑に実施できるよう支援していく。

スポーツの推進を図るため、各加盟団体が行うスポーツ教室を充実させるとともに、公民館利用団体や個人などに対して、同教室や各種イベント等への参加やスポーツ施設の利用促進などの働きかけに努める。

市民全体のスポーツ・レクリエーション振興に向けて、レクリエーション協会やスポーツ少年団などの他団体との連携をはじめ、指導者育成の推進や更なるスポーツ・レクリエーション活動の機会提供など、スポーツ協会が生涯スポーツの推進の中心的な役割を担っていけるよう、引き続き支援していく。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	B	<p>コロナ禍によるスポーツ・レクリエーション活動の休止は、市民生活にさまざまな弊害を残した。順次再開の状況にはあるが、スポーツ・レクリエーション団体のかかえる悩みやコロナ禍のもとでどのような困難が生じたのか、調査し記録に残していくことも支援のあり方として問われる。そのことを通じてスポーツ・レクリエーション活動がどのように市民の日常生活を支えているのか、種目を超えて団体間で対話し共有することも今後の活力となるであろう。／コロナが終わっても、各個人が安心と思えないと参加者は増えないと思いますので継続的に活動をお願い致します。</p>